



2017年5月30日

国立研究開発法人 建築研究所国際地震工学センター

第145号

〒305-0802 茨城県つくば市立原1 TEL 029-879-0678 FAX 029-864-6777

今月の話題

- 第4回中南米地震工学研修開講
- 関西・熊本研修旅行レポート
- 関西・熊本研修旅行の写真

研修 データベース

IISEENET(地震防災技術情報ネット)

IISEE-UNESCO レクチャーノート

Eラーニング

シノプシス・データベース(修士論文概要)

Bulletin データベース

地震データベース

2011年3月11日東北地方太平洋沖地震

地震情報

宇津カタログ(世界の地震被害)

地震カタログ(世界の大地震の震源メカニズム、余震分布等)

第4回中南米地震工学研修開講

国際地震工学センター 横井俊明、犬飼瑞郎、飯竹理広



建築研究所緑川理事長

第4回中南米地震工学研修開講式が、5月11日(木)午前11時~12時に、建築研究所講堂において開催されました。今年は、これまでの構造技術者に加え、建築担当の行政官の皆さんがIISEE研修に参加します。(チリ(4)、コロンビア(1)、ドミニカ共和国(3)、エクアドル(4)、エルサルバドル(3)、メキシコ(1)、ニカラグア(3)、ペルー(1)、ベネズエラ(2)からの9か国23名)

開講式は、JICA 筑波国際センター高橋政行所長と建築研究所緑川光正理事長が歓迎の挨拶を、チリのエドゥアルドさんが研修生を代表して挨拶を行いました。

本研修は、耐震技術の習得や人脈形成を図り、中南米地域での耐震建築の普及や将来の地震被害の軽減に貢献することを目的として実施されています。この研修をより効果的に実施するため、講義は日・西語の通訳を介して全てスペイン語で行われ、スペイン語の講義ノートも配布されます。また、構造技術者は、つくば市に位置するIISEEで6週間学んだ後、エルサルバドルに移ります。そこでは、現地の建築材料と中南米で一般的な建築手法を用いた構造実験に参加します。

IISEE 一同、研修が成就することを心から祈っております。

i Gran Éxito! (大成功を!)



チリのエドゥアルドさん

論文募集

IISEE Bulletin は、現在地震学、地震工学、津波に関する論文を募集しております。開発途上国に関するものを対象としていますが、それに限らず募集しています。

送って頂いた未発表の論文は、編集委員会と専門家による査読を行います。投稿料は無料です。

是非チャレンジして下さい。



関西・熊本研修旅行レポート

(Mr. Chintan Timsina ネパール、地震学コース)



5 日間に渡る研修旅行で、1995 年の阪神淡路大震災の被災地がある関西地方、2016 年の熊本地震の被災地を訪問しました。

神戸の人と防災未来センターでは、都市部での大災害による影響・再開発・復旧について学び、経験することができました。野島断層保存館では、神戸地震を引き起こした断層地表の亀裂面を見学し、地震の揺れのシミュレーション体験もできました。更に、世界最大の3次元振動台施設、世界最長のつり橋の視察

で、耐震建造物の高度技術と技法について理解を深めることができました。

熊本では、去年の地震によって激しい重大な被害を受けた南阿蘇村と益城町を訪問しました。熊本市の東部に位置する益城町は、断層帯近傍での広域にわたる地表変形を伴った最大前震・本震の2つの地震による強い揺れによって壊滅的な被害を受けた場所です。



明石海峡大橋

今回の研修旅行を終





楽しむのは今です。

連絡先

IISEE ニュースレターは、IISEE と卒業生の架け橋を目指しています。

ニュースレターへの報告や記事をお待ちしております。皆様の自国での活躍をお知らせ下さい。

また、皆様の同僚やお友達もこのメーリングリストに登録するようにお誘い下さい。

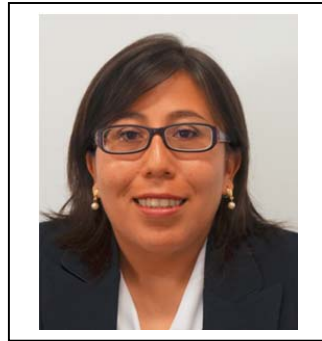
iiseenews@kenken.go.jp
http://iisee.kenken.go.jp

え、自然災害ひとつひとつに、学ぶべきそれぞれの特性があることに気づきました。過去の災害からの全教訓は、自然の危険な性質を軽減する方法を見出すのに有益です。それゆえに、記念公園・記念館・学習センターの設立は、災害から得た経験と知識を将来の世代に伝え授けるために重要であると思います。

(Ms Nabilt Moggiano, ペルー、津波防災コース)

今回の5日間に及ぶ研修旅行は、忘れられない経験となりました。

津波対策・教育についての知識の会得だけでなく、個人的には、静岡県吉田町の、たった5分での避難が可能な津波避難タワーの建設に重点をおいている地方行政の避難計画・取り組みや、防災公園・津波レベル2への安全性を含む防波堤を備えた、シーガーデンの準備について学ぶことができました。



過去の津波の記憶から、将来の世代への継承の重要性は、1854年11月5日、現在の和歌山県広川町に安政南海地震の津波が襲来した際、自身の田にあった藁に火をつけ、避難経路を示した、浜口梧陵の物語に再現されています。これにちなんで、現在では11月5日を“世界津波啓発デー”と記念しています。

私たちは、自然災害を予測できませんが、過去から学び、減らすことはできます。津波・暴風災害の予防に関連した研究・教育機関が、教訓的な資料を用いて災害準備の重要性について人々に教える、という大切な役割を果たしていることに感銘を受けました。その明確な例として、大阪における海面下にある町が挙げられます。過去に津波と高潮に影響を受け、現在は、近い将来発生可能性がある南海トラフ地震・津波に対し奮闘しています。

その一方で、昨年発生したマグニチュード7.3地震の被災地、熊本での経験も忘れ得ぬものとなるでしょう。断層や、復興し始めた地域を実際に見ることができました。

日本のように、ペルーも、環太平洋地震帯であり、地震・津波大国です。今回の経験は、自国の津波対策・災害マネジメント計画の向上と強化を奨励するに違いありません。日本の例に倣い、ペルーの津波警報システムにおいても教育が鍵であり、最大の手段です。

最後に、JICAと国際地震工学センターへ、このような機会を設けていただいたことに心より感謝申し上げます。



熊本城

バックナンバーは
下記をご覧ください。

<http://iisee.kenken.go.jp/nldb/>

(Mr. Ali Erhan YILMAZ, トルコ、地震工学コース)

今回の研修旅行は日本国内での地震の影響と被害を観察することでした。主な訪問先は関西地方と熊本県で、関西地方は22年前、熊本県は1年前に大きな地震がありました。東寺、人と防災未来センター、Eーディフェンス、明石海峡大橋、熊本市などたくさん訪れました。訪問先にはどれも明確な目的があり、綿密にスケジュールが組まれているのがわかりました。日本で一番高い五重塔では木造建築が振動を吸収する心柱制振という、高層ビル建築で用いられているマスダンパーの考えの基を学びました。

人と防災未来センターでは地震がどれほど大きな災害を引き起こすかを学習することができました。地震や津波の被害にあった方々の苦悩に共感し、常に自然災害が起きる可能性を念頭におくべきだと強く感じました。

自分が一番興味を持ったのは世界最大の振動台と世界最長の吊り橋です。その振動台は実際の地震同様の耐震構造設計の実験ができます。世界でも屈指の高層ビルの一つの中を歩くのはとても素晴らしい経験でした。明石海峡大橋を見学して、努力をすれば達成できない目標はないと思いました。



京都 東寺

熊本では実際の建物の崩壊と活断層を観察し、地震によるその地域と建物に及ぼす影響を実際に見ることができ、日頃から理論上で学んだものを現場で観察する必要があると感じていたのもとても良い機会でした。最後に私たちを支え、貴重な知識や情報を共有してくださった皆さんに感謝いたします。この研修旅行で得たものが今後母国の発展に大いに貢献できると思います。



野島断層保存館

関西・熊本研修旅行の写真



東寺御影堂保存修理現場



阿蘇大橋崩落現場付近



液状化視察(熊本県益城町)



被災建物見学(熊本県熊本市)



防災科学研究所



崇城大学での講義



断層視察(熊本県益城町)



被災建物見学(熊本県熊本市)